グループホーム　まつざきの宿

地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	出入り口や目に付く場所に理念を掲示している。利用者に添った支援を第一に考えているので、日頃から生活に反映されている。		地域の中でその人らしくのんびり暮らしていけるようホーム独自の理念を作り、利用者の生活に反映されるよう努力している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕の申し送りや、週1回・月2回のミーティングを通して日々意見交換を行なっており、基本的な考えは共有できている。		申し送りノートを活用し日々の変化や情報を共有し統一したケアが出来る様に努めている。又、問題が生じた場合、皆で話し合い理念に近づけるよう(健康で明るく楽しい生活)努力している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ケ月に1度の運営推進会議を通して、地域の方や家族に利用者の日々の様子等を話し理解して頂けるよう努力している。	○	利用者の日常の生活の様子を写真入りで、地域や家族へ月に1度配布している。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩や買い物、受診等地域の方と出会った時は、気軽に挨拶や声掛けを行なっている。	○	通りがかりに気軽に立ち寄り、お茶を飲んでいただけるような開かれたホームにしたい。自転車の空気を入れたり、雨宿り、トイレ使用等
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、校区便りにいろいろ紹介されているので、文化祭、放生会・盆踊り・初詣等に参加させて頂いて交流を深めていく様努めている。松崎神社で花見をする時など開放してもらいトイレを使用させてもらっている。		地域の保育園と養護学校が年2回ずつ慰問にきています。又、保育園の夏祭りに参加させて頂きました。そして区の婦人会の方から踊りを教えて頂いています。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人大学や社協のボランティアさんにグループホームの紹介及び認知症についての講演を行っている。又、認知症サポーターとして講演を行っている。		デイサービスふくせんの郷の利用者に散歩のついでに立ち寄って頂いたり見学をして頂いてりしています、又、デイサービス横の広場をグランドゴルフ等で活用して頂いている。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を通して、今後の支援について皆で検討し、改善の努力をした。	○	初心に戻れるよい機会だと受け止め、今後の課題として取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や施設の運営・行事の報告を行い宿祭等地域の方を招待する行事では地域の方に参加を呼びかけて頂いたり、委員さんの予定に合わせて一緒に協力して行っている。	○	火災などの緊急時は区長さんに報告すると連絡をまわしてもらえる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年の5月30日の宿祭りには小郡市のグループホーム担当者と運営推進会議の委員さんに応援に来て頂きました。		介護保険更新時などに話を伺っています。又、月に1度入居者の状況を報告し行事予定表を提出しています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加して、ミーティング等で研修発表を兼ねて勉強会を行っています。又、家族から相談があれば相談場所を紹介できるようにしている。	○	今後共研修や勉強会を重ね、全員が理解できる様努力していきたい。平成20年1月17日研修済み。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	小郡市の高齢者虐待防止対策研究会に参加している。	○	職員のストレスをためない為、交代で休憩を取ってリフレッシュしている。(健全な精神、肉体こそ健全な処遇に通じるものと考え、精神的、物理的虐待防止につとめている。)

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	所長、管理者、家族、本人と話し合いを行ない、契約時に事業所で出来る事と出来ない事の説明をし、受入られる条件を明記し説明の上理解して頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いはあらゆる生活の場面で言葉や動作、表現等に現れるので見逃す事のないよう、スタッフが情報共有し、改善に向けている。又、スタッフ間で話し合い利用者が戸惑う事のないよう処遇を共有している。		利用者間の会話や家族からの聞き取りにも関心をもち、情報として散りいれ共有していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回前月の行事風景を写真入りで、又、当月の予定や会計報告を書面で送付し来訪時にサインを頂いている。又、面会時には日々の状況を報告し、希望された時は記録物を見て頂いている。相談があった時は、話し合いの場を設けている。		健康状態や変化はその都度連絡している。現在の職員については、ボードにて写真入りで掲載している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に必ず職員が対応し利用者の状況報告をする事にしており、家族からも意見や希望を言って頂いている。その事をミーティングにて話し合い改善に向ける努力をしている。ご意見箱を設けている。		苦情･相談窓口の情報を玄関入り口に掲示し、ご意見箱は気兼ねされないよう目立たない場所に設置している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回･月2回のミーティングを通して意見交換を行ない改善に向けて現状やこれからを話し合い、改善に向けての勉強会をしていい。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	本人の希望も取り入れ、無理のないシフトを組んでいる。急な休みのときにでも対応できる急な休みの時にでも対応できる人事配置がさrている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむおえず異動があった時は引き継ぎを十分に行ない新職員が馴染むまでは他のスタッフがカバーするよう、配慮している。利用者へは不安を与えないような理由を統一して説明している、		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	幅広い人材を採用している。各階にも男性職員を採用し全職員がどの職場でも働けるよう育成していきたいと考えている。本人に合った部署を考えた場合によっては異動にて働きやすいようにしている。		若い職員には子供を育てやすい環境作りを心がけている。
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	法人全体で新人研修を行なっている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会は順番で全職員が参加できるようにしています。研修報告書や資料は全職員が閲覧できるようにしています。又、認知症介護実践者研修へ職員ができるだけ多く行くように努めています。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人にもう1ケ所グループホームがあり運動会などの交流は行なっており、マンネリ化しない処遇を話し合っています。同業者では、書類など書き方が分らないところは問い合わせをする事があります。		近隣のグループホームと行事交流を行い車イスダンスを習得し、今年の宿祭りで披露しました。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の誕生日にはプレゼントを用意したり、業務終了後1階の相談室でお茶の時間を設けているので、思い思いの話を1階の職員と2回の職員が行なっている。		業務終了後お茶を飲みながら10～15分位会話している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	取り決めとしては常勤職員は月2回の希望の休みを受入、それ以上の希望の場合は職員間で相談して決めています。運営者も頻繁に訪問しているので職員も向上心を持って働けるように評価をもらっています。		機会があれば研修、勉強会に行けるように勤務交代をする事もある。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に情報として大体の事は把握する様にしているが、本人とあって少しずつ本人の思いや不安、希望等を知る努力をしている。		ゆっくり時間をかけて馴染んで頂いている。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを受け止め、十分に話を聞くようにしている。ホームで対応できない場合は他のと頃を紹介している。		面会に来られた際、利用者の行なわれたいい事を報告し面会に来る楽しみ作りをしている。
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事、必要としていることを、見極めこちらで対応できない時は他のサービスを紹介している。		他の利用者でよかった事は紹介するようにしている。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来ていただいたり、体験で宿泊も出来る様にしている。本人の不安を取り除く努力をしている。		本人、家族と話し合いサービスを始める時期を調整している。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の発語や表情の中の思いを見逃すことなくスタッフ一同共有し、皆で共感出来るようにしている。		入居者と職員が食事や作業を一緒に行なったりドライブや行事に参加し交流している。味付けや慣わしなど教わる場面も日々見られる。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族と会話をする様にし、本人の生活の様子や変化等を話しており、改善策等一緒に考えて頂いている。		入居者や家族の希望に添えるように、職員皆でその方の支援について考え実現に向けて努力している。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族には居室にてゆっくり過ごして頂ける雰囲気作りをしている。家族への電話や家族から電話も気軽に応じている。		本人、家族の気持を最大限に尊重し、両者が異なる意見がある場合は適宜、調整している。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力して頂き馴染みの友人に会いに行ったり、友人が面会に来られる事もあります。又、近くのスーパーに買い物へ行った際に知人と会うこともあります。実家が近い入居者の居室には地図を貼り、地域の事を思い出してもらっています。		法人内のデイサービス利用の友人のところへ出掛けている。近くの自宅へは押し車を押し帰宅されたり、郵便局、スーパー等にも出掛けられる。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の関係は職員が把握できており、トラブルになりそうな時は職員が間に入りとりなしたり、気分を変える工夫をしている。		孤立している場合は職員がヶ別に対応する。外出、買い物等、趣味や好みに合わせて個別に対応している。行事やレクリエーション、体操などに参加して頂き交流の場を設けている。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	短期の入院の場合は、見舞いに行ったとき退院時の注意などを聞き、退院の準備を行ないます。長期の場合は一旦退所の形になりますが、退院の目処がつくと次の退所者があれば、次の入所で退院の受入を行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発語や表情等から本人の意向を把握するよう努め、実現に向けてスタッフ間で話し合っている。		生い立ちから現在までの生活環境を把握し対応している。

グループホーム　まつざきの宿

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族からの聞き取りとその後の生活の中で本人より時間をかけて少しずつ聞き取っている。		プライバシーの配慮し聞き取っている。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの知り得た情報を全職員で共有できるように仕事に入る前に申し送りや記録に目を通すようにしている。		入居者お一人お一人の個別ファイルを作り記録している。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向を取り入れその時々に応じた個別の計画を立てている。		本人が得意なものを見出しその事を伸ばし誘導する努力をしている。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ケ月毎の見直しを行なっている。又、変化に応じて家族と話し合いプランの見直しをしている。	○	迅速臨機応変に対応していきたい。(毎月実施と評価を記入し変化がある場合はその都度見直しを行なっている。)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉をしのままに記録にしていく方法を取り入れ、本人の思いや希望を支える工夫をしている。		プラスの原点での記録を心がけている。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族の事情により奥さんも一緒に夕食を食べて頂く事もある。又、家族や友人宿泊されることもある。		急な家庭の事情により同系列のデイサービス利用後、夕食を摂られたり、2～3時間過ごされることもある。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の駐在所の方、ボランティアさん、又、文化会館より催し物の招待状を頂き利用させた頂いている。消防署からも救命講習の呼びかけがあり参加している。		社会福祉協議会のボランティア、地域の慰問、駐在所も定期的に見回りに来ている。校区内の保育園や養護学校より慰問をうけている。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望により今まで馴染みの病院のデイサービスを利用される利用者を、病院のケアマネージャーと話し合い協力し支援している。		在宅で自立時代に利用されていたので引き続き家族と本人とデイケア担当者で話し合い料金を設定し利用される。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例は相談いたします。		成年後見制度については相談があれば社会福祉士にいつでも面談にて相談している。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人馴染みの病院を継続されている利用者も家族が希望されれば事業所の協力医療機関を利用して頂いている。又、利用者の一般状態が悪い時は昼夜問わず往診や指示が仰げる・		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週2回看護職員が健康チェックをしており、スタッフと気軽に相談できる関係を確立している。又、入居者の急変時には、1～2分で来てもらえる。		家族と一緒に行ってもらい助言を頂いている。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週2回看護職員が健康チェックをしておりスタッフと気軽に相談できる関係を確立している。急変の場合は1、2分で来てもらえるので助かっている。		看護職員との看護連絡ノートを作り利用者の日々の変化を把握してもらっている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、本人や家族に不安を与えないように相談に応じており退院に向けて関係者や家族と密に連絡を取っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃から家族の意向を伺い、本人にとって望ましいケアを段階に応じてスタッフ、家族と話し合い共有している。又、家族の希望でドクターの指示を仰ぎ毎日往診に来てもらっていた。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力病院、家族等と話し合い本人にとって最善の支援方法を考え共有している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	親しい知人から言葉の暴力を受けて落ち込んでいる入居者がいましたが、家族の希望で2階に上がられ仲の良い友人と会話するにつれて、笑顔が出てきた。		今までに、家族の希望により1名の方が特養へ移られました。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の人格、プライドを傷つけない介護を心がけている。記録にはアルファベットを使用している。(本人以外の他入居者名を書く場合)	○	親しみながら対応し、慣れあいにならないよう気付いたら職員間で互いに注意しあえる関係を作りたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に決定してもらう声掛けを心掛けており言葉や表情を見逃さないようにしている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ないところを少しだけ手伝うように心掛けており自由に過ごして頂いている。	○	最後まで本任に意志決定をして頂く支援を行なっていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容室、移動理美容をりようされている。同じ服装が続いたり、ちぐはぐな服装の時は職員がさりげなく直している。	○	外出時や行事等改まったときには、化粧をして頂く。(自分でされる方もある) 服装もいつもと違った装いをして外出を楽しんでいただきたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや配膳、お茶入れ等出来る事は手伝って頂いている。職員も一緒に食事をし、楽しい時間を共有している。	○	目先を変えて庭での食事やたまには外食を取り入れる。外食ではメニューを見て自分で食べたい物を選ぶ楽しみを感じて頂きたい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物好きな方と一緒に定期的に近所のスーパーにでかけ、好きな物を買って頂いている。又、コーヒーを自室で入れられる方もある。	○	利用者同士が居室を訪問し合いお茶を楽しまれる関係作りができている。職員は距離を置いてい見守り、楽しい時間を過ごして頂いている。
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけオムツを使用しないよう排泄パターンを把握し、その人にあった排泄方法を支援している。	○	夜間、オムツを使用されている方が2名おられますが、4時間毎のオムツ、パット交換を行ない、プライドを傷つけない配慮を心掛けています。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理強いせず、一人一人に合わせた声掛け、タイミングよい声掛けを工夫している。利用者は入浴の目的を良く知っておられるので体調に合わせ声掛けを行なっていくとゆっくり入浴されます。		入浴拒否が強い方には好きなお菓子や会話で時間をかけて説得している。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の記録で睡眠パターンは把握している。その方のリズムで休息や睡眠が出来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりにあった出来る事をして頂いている。例えば料理の下ごしらえ、盛り付け、又掃除等職員も一緒に行なっている。		一人ひとりを把握し出来る事は手伝って頂き、役割を果たす事で自信が保てる様心掛けている。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い自己管理できる方は自分で持って頂いている。困難な方でも機会があれば自分の財布を持って支払をさせてもらっている。金銭保管マニュアルを作成している。		買い物に行きたい希望があれば職員1対1で出掛け希望の商品を購入されている。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は散歩に出掛けている。買い物や美容室、病院、自宅等本人の希望を取り入れ外出している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	機会があれば文化会館へコンサートや映画に出掛けている。又、花見等季節に応じたドライブに出掛けたり、買い物に一緒に出掛けている。家族と芝居に行かれることもある。	○	誕生月の日は職員と2人で希望の所へ行っています。最近では大宰府国立博物館へ出掛け、利四社の以前からの希望を叶える事ができ、職員にとっても喜びでした。今後も個々の希望に添えるような外出をしていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、現在ご自分で電話をかけれないので、決まった時間に職員がダイヤルしてかけてもらっている。		23日をフミの日と称して職員から利用者へお手紙を出しています。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は決めていません。訪問時はお茶を出して居室やフロアで自由にゆっくりと過ごして頂いています。又、息子様夫婦が来られ一緒の食事をされたり、娘様が泊まられる事もあります。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はないが、ベッドからの起き上がりの為柵を1本使用している方がある。家族には了解を得ている。	○	マニュアルを作成し定期的にミーティング等で勉強会を設けている。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に解錠し玄関も出入り自由にしている。本人希望で外出、入浴の際には安心して頂く為居室にカギをかけている。		フロアーには必ず職いいが配置し刻張りをしたい。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	**職員は昼、夜共に利用者を把握できる位置にいて、全員の様子をさり気なく見守っている**	○	居室の小窓より中の様子を伺うことが出来るので、自室に居られる時はそっと見守りを行なう事ができる。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を見極め危険と思われる物は目に付かない所に収納している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況に応じて起こりえる事故を想定し対策を話し合っている。	○	一人ひとりの一日のサイクルを把握し、小さな異変も見逃さないよう、ゆっくりとした緊張感を持って仕事する。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時受入は協力医と話し合っている。職員はマニュアルを通して日頃より勉強している。	○	職員は、消防署主催の普通救命講習を必ず1度は受講する事にしている。又、ＡＥＤを導入したので、周知徹底するよう勉強会をしていきた。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施しており運営推進議を通して地域の方にも地域の方にも協力をよびかけておる。	○	職員間でシュミレーションを行なう。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者の現状や予測されるリスクについて家族等に説明している。	○	自由にのんびりご自分のペースで暮らして頂きたいので特に決まりは作ってないが、職員は常に緊張感を持って仕事に当たる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子をよく知り、変化や異常には速やかに対応できるよう、申し送りを周知している。		変わった養子が見られたらすぐに病院受診する。脳梗塞に気付き重とくにならなかった事がある。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬について知る事が出来る様説明書は個人別にファイルに明記している。何の病気に対する薬剤か用法、用量、副作用について把握している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材やおやつに工夫している。又、散歩や体操も取り入れ便秘予防に取り組んでいる。緩下痢の使用も時には見直しを行なっている。		朝食前に水分をとってもらったりヤクルやト牛乳を飲んで頂いています。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは入居者本人に任せている事が多いが、困難な方は職員が支援している。(自室の洗面所で歯磨きの準備を行ない見守りながら支援する)	○	口腔ケアが十分な時は介護計画の中に取り入れ介助を行なうようにしている。必要時は鹿受診を行なっている。又、訪問歯科を利用する事もあります。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの日課ファイルを作り、食事や水分量をチェックしている。不足している方は代替え分を提供sている。又、常にアルカリイオン水は準備している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防マニュアルは必ず作成し職員に徹底している。手洗い、うがいの習慣化、トイレを清潔に保ち、手洗い後はウェルパスを使用している。	○	今後も月例ミーティングで勉強会を行なっていきたい。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎朝新鮮な食材が納品されている。台所廻りを清潔に調理器具の消毒を行なっている。肉、魚は直接業者さんが毎朝配達されている。		6～9月は魚の生食は避けている。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関さきには季節の花を植えており、入り口には一面ガラス張りでホールが見渡せ、出来るだけ開放的な雰囲気を出すよう心がけている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアーは台所から見渡せ、調理をする音や匂い、TVの音、音楽等家庭的な雰囲気で過ごして頂いている。	○	季節の飾り付けを利用者と一緒に準備、作成し楽しんでいる。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナー毎に座ってくつろげる場所を設けておりその時の気分でその時に気の合った方々で利用される。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れた物や馴染みの品を持ち込んで頂き居室は自由に使って頂いている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を施行しホールには天井にファンを使用し空気のよどみがない様に心掛けている。温度ちょうせつはこまめに行なっている。		ホール各居室に温度計を設置し場所ごとの温度に気を配っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れる様、廊下や移動場所には手すりを設けている。又、浴槽、共有のトイレ等も安全に使用出来る様工夫している。	○	転倒の危険がある方には、カーテンやポータブルに鈴をつけている。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	玄関のガラスには貼りものをして、ガラスがある事を示し誤認や錯覚がない様にしている。共有トイレが分らない入居者の為にトイレと書いた目印、また出入り口には各人毎、郵便受けや標示ボックス等を設け各人の部屋の特徴が出せる様配慮している。居室が分らない方の為に大きなリボンを付けている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑に野菜を植えており、皆で楽しく頂いている。収穫した野菜を揃えて頂いたり、切干大根を作ったりしている。出窓にプランターを置いて花を育てており、自室の窓から水やりされる。		ベランダへ自室で洗濯したものを干しに行ったり、とろりこまれたりする。又、夕日を拝んだり、外気を楽しまれる。さつま芋の収穫に合わせホームの庭で焼き芋パーティーを楽しんで頂いた事もある。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム　まつざきの宿

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの周りは自然に囲まれ、とても静かで、気軽に散歩や外出ができる環境にあり、畑では四季折々の物を収穫して皆様で美味しく頂いています。又、入居者には地域の方が多く、ご家族や近所の方が散歩がてらよく立ち寄られます。これからも地域に根ざしたホームを目標に入居者については、それぞれのペースを大切に、毎日を楽しく過ごして頂き、いつも入居者の笑顔が絶えないようなホームを目指していきたい。